

明治大学博物館見学と付近の散策

2018. 6. 1 記 三島昭雄

■実施日：2018年5月24日（木） 9：30～15：40

■参加者：8名

「明治大学博物館見学と付近の散策」は今回が2回目になります。第1回は平成23年に実施しました。そのためかわかりませんが、今回の参加者は8名と少なかったですが、前回よりも見学場所も増え、充実した一日でした。

最初は明治大学博物館を見学しました。博物館はもともと商品博物館、刑事博物館、考古学博物館に分かれていた施設を統合し、明治大学の大学史の資料も加えて現在の博物館となっています。考古部門の展示は旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代となっています。

旧石器時代では、埼玉県砂川遺跡から発掘された石器類が展示されている場所では私達が所沢から来ているのを知ってかボランティアのガイドさんの説明には熱が入っていたようでした。



ガイドによる展示解説



砂川遺跡の解説と出土品

約1時間、考古部門で出土品等の説明を聞いた後、刑事部門での説明がありました。刑事部門では主に犯罪者の処置について、いろいろな拷問器具が展示されていて、特に西洋ではギロチンと「鉄の処女」が有名ですが、「鉄の処女」は実際には不都合があり、あまり使用されなかったかったことです。



ギロチン



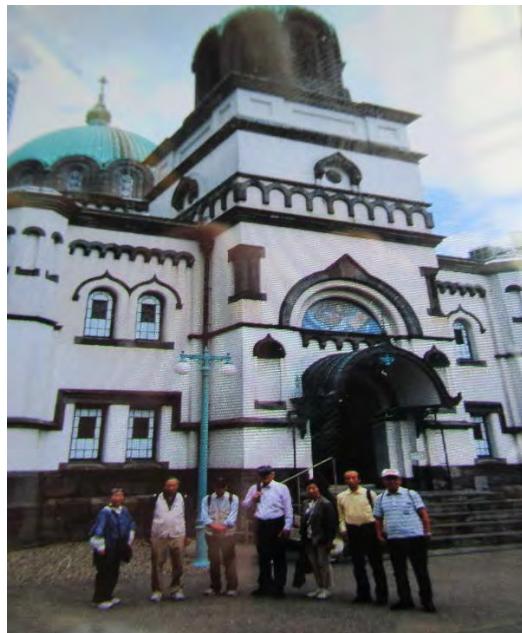
鉄の処女

1時間20分の見学のあと、同じフロアにあります「阿久悠記念館」に寄りました。阿久悠は日本を代表する作詞家・作家で誰もが知る多数の歌謡曲の作詞を手がけました。見学後、別の23階建ての校舎で、通称「リバティタワー」の17階にある学生食堂で各自の好みの昼食をとりました。

昼食のあとは、ニコライ堂です。ニコライ堂は日本教会の首座主教大聖堂であり、日本正教会の中心的存在です。

イイスス・ハリストス（イエス・キリスト）の復活を記憶する大聖堂であり、正式名称は東京復活大聖堂」「ニコライ堂」は別名であり、日本に正教会の教えをもたらしたロシア人修道司祭（のち大主教）聖ニコライにちなんだました。

1962年、国の重要文化財に指定されました。



ニコライ堂前

ニコライ堂の次は、湯島聖堂です。湯島聖堂は、徳川五代將軍綱吉は儒学の振興を図るために、元禄3年（1690年）湯島の地に聖堂を創建して上野忍岡の林家私邸であった廓殿と林家の家塾をここに移しました。これが現在の湯島聖堂の始まりであります。世に名高い「昌平坂学問所」通称（昌平校）を開設しました。

湯島聖堂からすぐに神田明神があります。神田明神は、江戸東京に鎮座して1300年近くの歴史を持っています。江戸時代には「江戸総領守り」として將軍様から庶民に至るまで江戸のすべてを守護してきました。そして、今でも、東京 — 神田 日本橋 秋葉原 大手町 丸の内など 108 の町々の総氏神様として江戸の素晴らしい伝統文化を保っています。

江戸三大祭りの一つとされ、神田祭として2年おきに（西暦奇数にあたる）行われています。



神田明神

前回はここで終了でしたが、今回は蔵前橋通りを本郷に向かって歩き、「東京都水道歴史館」を目指しました。途中、お茶ノ水「おりがみ会館」がありました。店内にはおりがみで作られ商品や種々のおりがみ紙が置かれてあり、子供に限らず、大人でも大いに楽しめる場所でもあるようです。

また、外人にも人気があるようで、結構、外人の出入りが多く見受けられました。

そこから少し歩いた所に最後の見学場所の「東京都水道歴史館」あります。1階は世界に誇る東京水道 近現代水道 2階は東京水道の起源にせまる 江戸上水 となっています。1階の近現代水道では震災や戦争、渴水など数々の困難を乗り越え、規模・水質とともに世界有数のレベルに成長した東京その歴史を実物大模型や映像解説などを紹介しています。2階は江戸の上水井戸や木樋、古文書などの資料があり、玉川上水にまつわる物語、当時の長屋の再現空間など江戸の生活と水文化の発展を知ることができます。今回は時間がなかったので、通り一遍の見学になりましたが、ゆっくり見学したい場所でした。

この建物の隣に「本郷給水所公苑」があります。バラで有名なところですが、現在はバラの最盛が終わって、所々に咲いているに過ぎませんでした。

ここから、丸の内線「本郷三丁目」まで行き、池袋で解散しました。



東京都水道歴史館



本郷給水所公苑 バラ園